

第1回空間デザイン検討部会 概要まとめ【令和7年9月30日開催】

委員意見

エリアマネジメントについて

- ・地域の人が主体的に続けていかないといけない。
- ・ちゃんと組織があって、その組織が企画して周囲的に使っていくイメージをした方が周辺の開発に影響していく。
- ・市民の広場、みんなの広場みたいなイメージが強いが、最終的には、しっかりとした企画力のある組織と収益がないといけないことを共有していくべきではと思う。
- ・稼げる構造とその空間があれば、自然とビジネスになっていく。
- ・合意形成する層と事業を実施する層で分けた方が良い。

地域らしさを表現する視点について

- ・ターゲットによって景観の捉え方に違いがある。来訪者からは静岡らしさ、住民やまちの人からは南口らしさを求められる。
- ・静岡らしさを追求しすぎるとデザインしづらいのではないか。
こだわりすぎない方がいい。
- ・モニュメントのための広場になってほしくない。

中央建物・サービス機能について

- ・建物として整備したい機能はここまで議論してきた基本計画を踏まえたほうがいい。
- ・無料で使えるかどうか、誰にも開かれてるかどうかは、まちのスタンス次第である。
- ・人口を増やしていく方針なら、学生が過ごしやすい、居ついてくれる機能が必要。
- ・青少年のサードプレイスをどこで担うかは、まち全体をみた議論が必要になる。
- ・広場として最低限やりたいことをイメージし、それと相乗効果を生んでいける機能を議論していくことが大事になる。
- ・周辺の既存施設や機能をよく考慮して必要な機能を考えることも重要である。

お出迎えの機能について

- ・コンコース前は人の主動線としての機能が強く、ここでのイベントはやりにくいのでは。
- ・待ち合わせの場所となることが考えられるため、広くあるべきだがあまり利活用機能を詰め込みすぎなくていい。

「目指す方向性の実現」に向けた空間デザイン検討に係る視点

令和7年3月31日策定 静岡駅南口駅前広場再整備基本計画

■目指す方向性



配置の視点①:使いやすい歩行者動線と滞留空間の確保

配置の視点②:快速な移動・乗換の実現

配置の視点③:駅への配慮

機能の視点①:「まちのロビー空間」に必要な機能の具体化

機能の視点②:持続可能でフレキシブルなデザイン

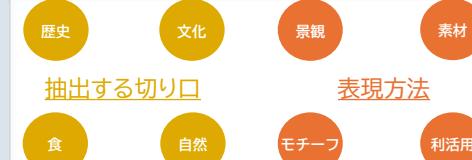
機能の視点③:駅前広場と中央建物とのつながり

つながりの視点①:まちへの見通し

つながりの視点②:まちとつながる空間

つながりの視点③:まちとの一体的なデザイン

地域らしさを表現する視点



社会変化に対応した視点



これからの駅前広場にふさわしい空間(イメージ)を形成

空間デザイン部会での検討項目

- 空間デザイン方針
- ロータリーや滞留空間、広場施設等の形状、規模、配置
- 広場施設のデザインと周辺建物とのデザイン調整

委員意見を踏まえた検討方針

イベントスペースとして使うのではなく、待合せ場所としての「お出迎えの機能」を検討

【中央建物の検討方針】
・適正な規模、配置、奥行き
・駅舎前面の景観への影響
・2階以上へのアクセス方法
・イベント開催のための設え(1階ピロティ部分)

日常的に広場利用者の休憩・滞留場所として「気軽に立ち寄れる憩いの機能」を検討

「人と文化の交流機能」として屋根下のイベントスペースを検討(倉庫設置によりすぐに設営可能)

主導線を拡幅して石田街道へのスムーズな移動と見通しを確保

中央建物や民間開発誘導エリアへの将来的な歩行者の増加を見込んで十分な幅員確保を検討

主導線拡幅のために公共交通口ロータリーの形状変更を検討

民間開発誘導エリア

公共交通口ロータリーや身障者用駐車場から雨よけ・日よけのあるバリアフリー動線を確保

ピロティ空間をより広く開放的に確保できるようにサービス機能の配置や規模を検討

【ペデストリアンデッキの検討方針】
・デッキ(民地)が景観へ与える影響
・再開発ビルへのバリアフリーーアクセス

「まちとつながるゆとりの空間」はサービス機能(待合所と飲食等)や民間空地と一緒に検討

再開発ビル中央の道路は広場や歩道と同じ設えを検討(撤去車両のみの通行を想定)

再開発ビル

※ベース図は基本計画時点のものを使用

「目指す方向性の実現」に向けた空間デザイン検討に係る視点について

- ・少子化で人口が減ってきた時代に、どうやって交通も含めデザインしていくか。新しいテクノロジーを取り入れたコンセプトも考えてみては。

社会変化に対応した視点について

- ・公共交通の利用促進やコンパクトシティ、都市機能の集約などに対応した視点があるといい。
- ・緑は多くの人に受け入れられるデザインであり、緑陰と座る場所をセットで考えていくべきでは。

屋根について

- ・傘を差さずに乗換を可能にするアンブレラフリーを目指している駅前が増えてきているが、それを真面目にやりだすとシェルターだらけになってしまう。
- ・整備コストを考慮し、特定の部分(公共交通ロータリーや障害者乗降場)を優先的に設え、全体に屋根が無くてもいいのでは。
- ・まちとつながるゆとりの空間に屋根のある待合所等を設えることで、周辺エリアや民間空地と連携しやすいのでは。

歩行者動線・空間について

- ・現在は広場西側が人の流れの主動線であるが、整備後の人の流れの変化をイメージする必要がある。
- ・駅前広場と民間開発誘導エリアへ向かう動線であるが、幅員が小さく、つながりが希薄に感じる。
- ・「気軽に立ち寄れる憩いの空間」では、建物を建てたりものを置いたりするよりかは、空間を見通せる方がいい。

気軽に立ち寄れる憩いの機能について

- ・東西動線として塞がずに、休日はマーケット、平日はベンチ等の休憩施設として利用する。
- ・自家用車ロータリーと一緒にイベントを利用することも可能なのでは。